

BBL (レベル0～レベル3)の取り組み方

BBLのレベル0～レベル3はフォニックスを学ぶための本です。
This is phonics で学んだルールだけで読めるようになっています。
その他、サイトワードというフォニックスのルールには当てはらないけど
頻出単語なので目で見て覚えてしましましょうという単語が出てきます。
サイトワードはその都度覚えて読めるようにしていきます。

取り組み方としては、以下の手順が基本になります。

1 まずは声に出さず、最後まで黙読します。

その際に絵も見ながら、どんな内容なのかを考えながら読みましょう。

2 裏表紙に書かれている単語を音読しましょう。

左側はこれまでに学んだフォニックスのルールで読めるものです。
右側はサイトワード。進出の単語も、既出の単語も載っています。
進出のサイトワードは自分では読めないのので後でCDを聞く時に確認しましょう。

3 タイトルからスタートし、最後まで自分の力で読んでみましょう。

4 ここでルールハントを是非おこなってください。

ルールハントというのは、学習したフォニックスのルールをテキストに書き入れることです。
たとえば、eat という単語なら、ea(礼儀正しい母音のルール)の部分にマーカーを引く。
make という単語なら aとeを○でかこみ、サクランボを作る。

5 この時点で初めてCDを聴きます。

自分の思っていた読み方が正しいのかを字を見ながら音声を確認していきます。



6 CDの後について、英語らしいイントネーション、音のつながりで読みましょう。

1文ごとにCDを止めて、その後についてリポートします。
フォニックスを学んでいる段階では、1つ1つの音、1つ1つの単語をすべて基本通りに読もうとします。
しかしながら、本来の英語は文章になると、前後の単語の音に影響されて
音が繋がったり、合体して違う音になったり、省略されて脱落したり様々な音声変化が見られます。
ここに気づいて、CDの通りに読むことがポイントとなります。思い込みを捨てて、真似することが大切です。
文字を読めるようになると、読めることが嬉しくて、CDを聴くことをおろそかにする生徒さんが
結構な割合でいらっしゃいますが、それではブツブツと途切れ途切れの英語になってしまいます。
この段階では、CDを100%コピーすることを目標にしてください。

7 CDの真似ができるようになったら、今度はCDと同じタイミングで読んでみましょう。

これをオーバーラッピングと言います。
オーバーラッピングをすれば、イントネーションが違うことがすぐにわかります。
また、同じタイミングで言えないところも出てくるでしょう。
同じタイミングで言えないところというのは、音声変化が起こっています。
もう一度、手順6に戻ってよく聴いて練習しましょう。

6と7の段階で、自分の音声をスマホで録音して客観的に聴く機会を持つと効果的です。

BBLはレベル4からは多読用のリーディング教材になり、音声はナチュラルスピードになります。
レベル3までの段階で、リポート、オーバーラッピングをしっかりとやる習慣を付けておくと
レベル4以降の学習がすごくラクに行えます。

なかなかうまくいかない時もあるかと思いますが、困った時はすぐにご相談ください。
お子さんにとっては、すごく難しいことに頑張っているのだということを忘れずに、
まずは今できていることを当然と思わずに、認めて褒めてあげてください。
BBLを読んだら、いつもパパママが褒めてくれると思うようになったらしめたものです。
自分からどんどん読むようになります。
お子さまが読んでみようという意欲が湧くような、あたたかい言葉がけをお願い致します。
お子さまの発音がおかしい時は、スマホで録画して、CDと自分の音声の違いを本人に確認させましょう。